

廃線トンネル

春日井の中央線旧線

カンパで買おうぞ

春日井市から岐阜県多治見市まで約8⁺続く旧国鉄中央線の廃線跡の一部を買い取ろうと、カンパ集めに取り組む人たちがいる。春日井市民ら約90人でつくる同市の「愛岐トンネル群保存再生委員会」。廃線沿いに残る自然や、赤れんが造りのトンネルを地域の財産として見つめ直し、将来は、散策路などとして使える地元の貴重な観光資源へと育てていきたい考えた。(磯部征紀)



春日井市のJR定光寺駅。駅から数分歩くと、旧中央線の高蔵寺―多治見区間への入り口がある。フェンスのドアは施錠されていて普段は入れず、レールや枕木も撤去されている。だが、茶色い角張った敷石はそのまま、列車が往来していた当時をしのげている。

この路線は1900(明治33)年に開通したが、現在の中央線が開通した66年以降は廃線になった。同会事務局長の村上真善さん(57)らは、2

市民団体 散策路への再生が夢

旧国鉄中央線の廃線跡に残る6号トンネル。春日井市木附町

年前から保存活動に取り組んできた。

同区間には明治期に、赤れんが造りのトンネルが14基築かれた。そのうち13基は今でも残っており、東海地方では最古の鉄道トンネル群となっている。また、沿線には、数百年のモミジが生い茂っており、景観の面でも観光資源としての活用が期待できる。

村上さんたちは周辺の草刈りをし、トンネルの研究も続けてきた。廃線跡を春日井市から多治見市へ抜ける散策路として再生させる。そんな夢を抱いている。

廃線跡の春日井市側の土地はJR東海と名古屋市の建設会社が所有しており、多治見市側は市有地となっている。

村上さんたちは建設会社が所有する土地の買い取りを計画しており、市民からカンパを募っている。1口千円とし、1500万円を目標としている。

地権者の了解を得て、5月の連休中には見学会を開いた。4日間で約3千人が訪れ、カンパ122万4千円が集まった。

名古屋市の会社員の男性(32)は妻と訪れ、2千円を寄付。「廃線跡は以前から知っていた。一度は歩きたいと思っていた。カンパは感謝の気持ちです」と話していた。別の女性は「昔、機関車でトンネルを通った。煙が入らないよう窓を開け閉めした記憶もある」と振り返った。村上さんは、廃線跡について「社会的に認知されつつある」と手応えを感じている。

トンネル群は昨年度、経済産業省から近代化産業遺産に関する認定を受けた。同会では6月、多治見市側にも支部を設け、社団法人「日本ナショナル・トラスト協会」にも加盟した。将来は、廃線跡の買い取りを実現させ、ウォーキングや教育などの場として活用したい考えた。

